

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	佐賀市立城北中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や重点目標の達成に向け、各委員会・部会を中心に組織的な教育活動を行うことができた。 ・生徒同士の関わり合いを重視した教育活動、委員会形式による学校行事の運営等を通して、生徒の自己肯定感を高め、他者を思いやる豊かな人間関係づくりを推進することができた。
------------------	---

2 学校教育目標	夢の実現に向け、志と意欲をもって学び続ける生徒の育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 主体的・対話的で深い学びを踏まえた学習指導の工夫・改善 ② 自己肯定感を高め、他者を思いやる豊かな人間関係づくり ③ 不登校生徒の減少に向けた教育相談、生徒指導の充実 ④ 特別支援教育の充実 ⑤ 家庭・地域・関係諸機関との連携強化
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○学びの質の向上	○『学び合い』の授業が楽しいと感じる生徒の割合83%以上 ○授業など、学習指導に満足している生徒の割合80%以上、保護者の割合70%以上	・校内研究で『学び合い』の考え方や実践等について研修し、授業改善を図る。 ・単元シートを活用し、見直しをもって学習を進めることができるようにする。 ・異なる教科担当でチームをつくり、相互授業参観や研究授業を行うことで、授業改善を図る。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○命を大切にできる心や思いやりをもって生活していると回答している生徒80%以上	・道徳の授業を中心に、生徒同士の交流を大切に、自己有用感を高める。 ・道徳科の授業づくりの充実に向けて、全職員で取り組む。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止について組織的対応ができていると回答した教員100%以上	・月に1回、全校生徒に生活アンケートをとり、生徒指導部会での情報共有を行う。 ・いじめ、いのちの講話を年間で8回、全職員で行う。 ・長期休業前にSNS等でのトラブルへの対応について全校集会の際に話をし、職員研修を行う。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・学校行事や生徒会活動を通して、生徒の出席・役割を保障し、自己肯定感を高める。 ・職場体験や地域で働く人々などに関わる機会を設定し、系統的・連続的な「生き方」教育を実践する。
●健康・体づくり	○不登校対策の充実	○不登校生徒の割合3%以下 ○Q-Uアンケートの学校生活満足の生徒の割合に、ついで2回目が年度当初より上回る。	・毎週1回「北辰タイム」(SST)に取り組み、人間関係づくりの強化を図る。 ・教育相談部会での共通理解・情報共有と、他機関との積極的な連携を図る。
	②「望ましい生活習慣の形成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	②生徒会委員会活動と連携し、生活習慣の改善に向けた意識の変容を図る。 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・生徒会委員会活動と連携し、望ましい生活習慣についての認識を深め、実践できる工夫をする。 ・全職員による定期的な登下校指導や交通教室の実施により交通マナーの遵守を徹底する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、部活動休養日を設定する。 ・留守電(自動音声対応)への切り替えや、会議のペーパーレス化、健康観察アプリの導入を行う。 ・教員業務支援員の積極的、効果的な活用を促す。
	○職員間の連携促進	○組織的に業務に取り組んだり、ICTを活用した業務を推奨したりすることで、業務負担が軽減した、と考えている職員80%以上	・校務分掌の精選や、分掌事務の内容の見直し、スリム化を図ることで、個人に負担がかからないような手立ての工夫をする。 ・業務に組織的に対応する体制の構築と実行する。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実	○個別の支援計画等を活用して生徒の特性を理解し、積極的に共通理解・共通実践を行った職員の割合85%以上	・支援を要する生徒の情報共有を組織的、継続的に行う。 ・学校生活支援員、特別支援学級支援員と連携しながら、きめ細やかな支援を行う。 ・巡回相談などで専門的な知識を得ると同時に家庭との連携を密にして、よりよい支援の在り方を模索する。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
●特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育の推進	○インクルーシブ教育に関する研修を行い、アンケートで実践できていると答えた職員の割合80%以上	・インクルーシブ教育に関する研修を開催し、教職員の理解を深め、実践する。
	○小中連携の推進	○提示された学習課題に対して、自分の課題を設定し、自分一人もしくは仲間と協力して解決できたとアンケートで答えた生徒70%以上。	・小中合同の課題解決に関する研修を行う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育